

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校アリス学園	平成4年1月20日	竹澤 勝志	〒921-8176 石川県金沢市円光寺本町8-50 (電話) 076-280-1001																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人アリス国際学園	平成4年1月20日	理事長 竹澤 敦子	〒921-8176 石川県金沢市円光寺本町8-50 (電話) 076-280-1001																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科 介護福祉士コース	平成21年文部科学大臣告示第22号	「-」																			
学科の目的	介護福祉の学問習得を通じて実務知識と幅広い教養を備え、実践力ある介護福祉士を育成する。																						
認定年月日	平成26年 3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	98単位	63単位	22単位	13単位	0単位	0単位																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
80人	67人	49人	4人	13人	17人																		
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:なし		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目の評価は、学期末、学年末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の5分の4に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 各学年の課程の修了は進級判定会議において学生の平素の成績を評価して行う。 卒業は所定の修業年限以上在学し、校長が課程を修了したと認めたる者には、卒業証書を授与する。																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級条件	■課外活動の種類 ボランティア、地域行事への参加  ■サークル活動: 無																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人との面談はもちろんのこと、担任が保護者等と密に連絡を取り、強力に指導している。		課外活動	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者にに関する令和元年5月1日時点の情報)																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 仁智会、心優会、ニシタ、愛里集福祉会、芳香会、洋和会、うちくる金沢、富樫福祉会、喜峰会、北野会、地域支援センターポレポレ、等		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>②</td> <td>15人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	介護福祉士	②	15人	10人								
	資格・検定名	種		受験者数	合格者数																		
	介護福祉士	②		15人	10人																		
■卒業者数 17 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 17 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■その他 なし		■自由記述欄																					
(平成 30 年度卒業者にに関する 令和元年5月1日 時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 6.4 % 平成30年4月1日時点において、在学者47名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者44名(平成31年3月31日卒業者を含む)		■中途退学の主な理由 進路変更が理由によるもの																				
■中退防止・中退者支援のための取組 ホームルーム活動、担任による指導等																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 本学園への入学を強く希望し、経済的理由により修学が困難である優れた生徒で、出身高校長の推薦のある者 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象																						

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://alice-japan.net/gakuen/subject/kaigo/index.html">http://alice-japan.net/gakuen/subject/kaigo/index.html</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基  
 専門学校アリス学園の教育課程の編成にあたり専門課程に関する社会福祉施設等の現場の動向を把握し教育内容に反映させる  
 ため、本学園に企業等からの外部委員を含めた教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校は、学科単位で専任及び非常勤講師による合同職員会議を開催し、学園の教育方針、カリキュラム内容及び学生生活等について意  
 見交換を学期毎に実施し教育内容に反映させている。教育課程編成委員会は、これに加え、より社会福祉施設の現場の動向を把握す  
 るために設置し、実際の福祉現場が必要とする実務に関する知識、技術及び技能を把握することにより教育課程の編成に反映する事とし  
 ている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
竹澤 勝志	専門学校アリス学園 学校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
山下 一夫	学校法人藤花学園 金沢龍谷高等学校長 兼 藤花幼稚園園長 石川県私立学校審議会委員	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	②
中野 朋和	医療法人社団仁智会 金沢南ケアハウス施設長 公益社団法人日本介護福祉士会副会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
前田 武司	社会福祉法人額小鳩保育園理事長 兼 統括園長 全国社会福祉協議会 全国保育協議会協議員 兼 石 川県社会福祉協議会保育部会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	①
藤井 千里	社会福祉法人愛里巣福祉会 幼保連携型認定こども園 金沢泉丘こども園園長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
山田 由香	専門学校アリス学園 福祉保育学科長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
鹿田 裕美子	専門学校アリス学園 介護福祉学科長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、  
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

2回/年

(開催日時)

第1回 平成30年12月7日 13:30～15:00

第2回 平成31年3月19日 15:30～16:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

本学園には日本語学科と介護福祉学科を設置しており、日本語学科から介護福祉学科への内部進学者の割合も多いため、今後も  
 両学科の連携を強化し介護福祉士養成に努めてほしいとの意見をいただき、日本語学科の介護進学希望者には基本的な日本語だ  
 けでなく、介護の専門用語等を指導し、介護の導入部分である「人間と尊厳と自立」や「介護の基本」の授業をスムーズに取り組み  
 するような環境づくりを構築している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

毎年実習開始前に実習担当教員が実習先の実習担当者と実習内容、指導要領及び評価方法について詳細に決定して  
 いる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習期間中は各施設を週1回程度訪問し、学生の学習状況について直接確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習修了時には、実  
 習担当者による学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ①	1. 実習施設の目的・役割・構造について理解する 2. 利用者の生活リズム を把握し、介護者としての役割を理解する 3. 人間的なふれあいのなかで利 用者との関わりが持てる 4. 基本的な日常生活の介護技術を、その根拠と 原則をふまえて見学し、実施する 5. 介護者としての視点で観察し、記録、報 告する 6. 地域社会における施設の役割を学ぶ 7. プロセスレコードを書く 8. レクリエーションの計画と実施	株式会社 イワクラ、株式会社 恵、株式会社 サンウェルズ、社会福祉法人 陽風園、社会福 祉法人 北伸福祉会、医療法人社団 仁智会、 医療法人社団 仁智会、株式会社 つくし、有限 会社 トリニティ、社会福祉法人 洋裕会、社会 福祉法人 眉文会、医療法人 積仁会

介護実習Ⅰ②	1. 実習施設の目的・役割・構造について理解する 2. 利用者の生活リズムを把握し、介護者としての役割を理解する 3. 人間的なふれあいのなかで利用者との関わりが持てる 4. 基本的な日常生活の介護技術を、その根拠と原則をふまえて見直し、実施する。また、場面における援助をその根拠と原則を踏まえて実施できる 5. 介護者としての視点で観察し、記録、報告する 6. 地域社会における施設の役割を学ぶ 7. 対人援助者としての自己を客観視する 8. 介護福祉士としての自己の課題を発見する 9. アセスメント表及び個別援助計画書を書く	株式会社大桑の家、株式会社遊子苑、社会福祉法人こころ、株式会社シェーネアルト、社会福祉法人洋和会、社会福祉法人中央会、社会福祉法人 眉丈会、(合同)天神町、株式会社恵、医療法人社団 映寿会、社会福祉法人福寿会、医療法人社団 仁智会、社会福祉法人 希清軒傳六会、医療法人社団 扇寿会、医療法人社団 映寿会、社会福祉法人 石川整
介護実習Ⅱ	1. 実習施設の目的・役割・構造を理解する 2. 利用者の生活リズムを理解し、利用者の個別理解を深める 3. 適切に介護過程が展開できる 4. 他職種との役割を理解し、連携の在り方を学ぶ 5. 地域社会における施設の役割を学ぶ 6. 介護者としての視点で観察し、記録、報告できる 7. 職業人としての介護福祉士である自己を明確にする 8. 介護福祉に関する研究的態度を養う	特別養護老人ホーム万陽苑、特別養護老人ホーム富樫苑、特別養護老人ホーム福寿園、特別養護老人ホーム金澤五番丁、ゆうけあ相河、なんぶやすらぎホーム、介護老人保健施設金沢春日ケアセンター、介護老人保健施設金沢南ケアセンター
インターンシップ	介護現場への就職を目指すものとして、介護福祉の学びの最終段階としての職業訓練を、現場の施設にて実施し、より即戦力となる力を身につける。	株式会社ほーれぼーれ、社会福祉法人愛里巣福祉会、医療法人積仁会、社会福祉法人福寿会、社会福祉法人洋裕会、社会福祉法人こころ、医療法人社団友愛病院会、社会福祉法人富樫福祉会、社会福祉法人希清軒傳六会、社会福祉法人北伸福祉会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校長は専門学校アリス学園教職員研修規定に則り、介護福祉学科教員に第5条勤務を通じての研修と第6条勤務を離れての研修の実施を命じている。

(2) 研修等の実績

① 指導力の修得・向上のための研修等

平成30年9月25日、平成31年3月18日に専任教員及び企業所属の非常勤講師参加による合同職員研修会を開催し、授業評価、教員の自己評価、介護福祉士国家試験についての評価・取組について意見交換を行い、指導力の修得・向上を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和元年8月31日に日本介護福祉士養成施設協会が主催する東海北陸ブロック教員研修会に専任教員が参加を予定している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

9月と3月に専任教員及び企業所属の非常勤講師参加による合同職員研修会を開催し、指導力の向上を図ることとしている。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専門学校アリス学園における教育研究水準の向上と活性化を図り、専門学校の目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価を実施している。その結果に対して外部委員を含めた学校関係者評価委員会を開催し評価を得ることとしている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか・学校における職業教育の特色はなにか・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか・各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか・事業計画に沿った運営方針が策定されているか・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか・人事、給与に関する制度は整備されているか・教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか・教育活動に関する情報公開が適切になされているか・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されている、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確か・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか・授業評価の実施、評価体制はあるか・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか・成績評価、単位認定の基準は明確になっているか・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか・人材育成目標に向け授業をお粉うことができる要件を備えた教員を確保しているか・関連分野における業界等との連携について優れた教員の提供先を確保するマネジメントが行われているか・関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組が行われているか・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか・資格取得率の向上が図られているか・退学率の低減が図られているか・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか・学生相談に関する体制は整備されているか・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか・学生の健康管理を担う組織体制はあるか・課外活動に対する支援体制は整備されているか・学生の生活環境への支援は行われているか・保護者と適切に連携しているか・卒業生への支援体制はあるか・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか・高校・専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか・財務について会計監査が適正に行われているか・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	留学生の受入れについて戦略を持って行っているか・留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか・留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか・学修成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

介護福祉学科へは今後更に留学生の増加が見込まれるため、教授法や国家試験対策についてこれまで以上の取り組みが必要となるとの意見に対し、日本語学科の教員と連携して日本語力の向上を目指すとともに、日本語学科と介護福祉学科併設の強みを生かし内部進学者には日本語学科在籍時から介護分野の学習を取り入れることとした。

### (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎 忠夫	金沢市伏見台町会長・元石川県立金沢伏見高等学校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	地域住民代表
前田 武司	社会福祉法人額小鳩保育園理事長兼統括園長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	保育施設代表
山下 一夫	学校法人藤花学園金沢龍谷高等学校長 ・石川県私立学校審議会委員	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	高等学校代表
中野 朋和	医療法人社団仁智会 金沢南ケアハウス施設長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等代表
宮崎 由美子	介護福祉学科在学学生保護者	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	保護者代表
藪内 雅也	専門学校アリス学園同窓会会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・令和元年5月1日)

URL:<http://alice-japan.net/gakuen/intro/jyouhoukoukai.html>

### 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

#### (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校法人アリス国際学園が保有する情報の公開に関し必要な事項を定めることにより、本学園の運営及び教育研究等の諸活動に係る社会的説明責任を果たすことを目的とする。

#### (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	情報公開規程(1)→学園の基本情報
(2) 各学科等の教育	情報公開規程(1)→学園の基本情報
(3) 教職員	情報公開規程(1)→学園の基本情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	情報公開規程(3)→教育活動に関する事項
(5) 様々な教育活動・教育環境	情報公開規程(3)(6)→教育活動に関する事項・教育環境に関する事項
(6) 学生の生活支援	情報公開規程(5)→学生支援に関する事項
(7) 学生納付金・修学支援	情報公開規程(7)→学生募集と受入れに関する事項
(8) 学校の財務	情報公開規程(2)→経営及び財務に関する情報
(9) 学校評価	情報公開規程(10)→学校評価に関する情報
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 情報提供方法

URL:<http://alice-japan.net/gakuen/intro/jyouhoukoukai.html>

授業科目等の概要

教育・社会福祉専門課程			介護福祉学科	介護福祉士コース	令和元年度				授業方法			場所		教員		企業等との連携	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
必修	選択必修	自由選択															
○			人間の尊厳と自立	テキストを基に講義形式で行うものとし、適宜詳細な資料や視聴覚教材を活用、レポート課題も盛り込みながら「人が人を援助する介護」における人間理解の重要性と意義を十分理解するよう構成する。また、具体的な介護の場面における「尊厳の保持と自立」について、倫理が概念的にならないようグループワークなどを活用し実践に即した内容とする。	1後	30	2	○			○				○		
○			人間関係とコミュニケーション	介護に役立つコミュニケーションの考え方やスキルを学習し、より円滑な人間関係の形成へと結びつける。／ カウンセリングの方法により、介護に役立つ対人援助の実際やスキルを学習する。	2前	30	2	○			○					○	
○			社会と制度の理解A	テキストを基に適宜詳細な資料やVTR教材等も活用し、レポート課題等も盛り込みながら、福祉対象者と社会保障関連法制度がどう位置付けられているか、また公私の機関団体がどのように関わっているか、そして広く人権・保健・医療・年金等に関わる制度についても、実践に即した内容で学ぶ。	1前	30	2	○			○				○		
○			社会と制度の理解B	テキストを基に適宜詳細な資料やVTR教材等も活用し、レポート課題等も盛り込みながら、福祉対象者と社会保障関連法制度がどう位置付けられているか、また公私の機関団体がどのように関わっているか、そして広く人権・保健・医療・年金等に関わる制度についても、実践に即した内容で学ぶ。	1後	30	2	○			○				○		
○			社会と介護A	模擬問題ならびに、定期的な試験により、必要知識の習得を行う。	1後	30	2	○			○				○		
○			社会と介護B	模擬問題ならびに、定期的な試験により、必要知識の習得を行う。	2前	90	6	○			○				○		
○			生活活動論	家庭・福祉・衣食住・消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習の一環としての授業であり、地域の行事・祭りへの参加、また清掃活動などボランティアへの参加により、地域住民の一人としてさまざまな生活文化に触れる。	2通	30	2	○			○				○		
○			介護の基本A	介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として基本となる考え方を学ぶ。「介護とは何か」「介護福祉士の役割は何か」をグループワークや演習を通じて学ぶ。	1前	60	4	○			○				○		
○			介護の基本B	介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として基本となる考え方を学ぶ。「介護とは何か」「介護福祉士の役割は何か」をグループワークや演習を通じて学ぶ。	1後	30	2	○			○				○		
○			介護の基本C	各障害の医学的側面に関する解説を行い、障害による機能低下に応じた生活機能の改善のための援助方法と事例を通しての習得を図る。	1後	30	2	○			○				○		



○		介護過程（基礎）	1. 介護過程の展開の道筋について、具体的な事例を示すなどして、介護過程の意義を理解できるようにする。 2. 介護過程の学習では、介護実践課程の全体像を学ぶものであることを理解する。 3. ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し活用、発揮することの意義について、理解する。 4. 自立度や生活の場に応じた介護・医療・保健との連携協働を必要とする介護、終末期における介護の展開などさまざまな利用者の状況に応じた介護過程の実践展開を理解できるようにする。	1前	30	2	○		○									
○		介護過程（応用）	テキストを基に講義と演習形式で進める。また資料等も活用し、利用者の生活の質の向上に向けて生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護の在り方を個別に考察し計画を立て、実施し、評価していく一連の流れを、演習を	1後	60	2	○		○									
○		介護過程（実践）	1. 介護過程の展開の道筋について、具体的な事例を示すなどして、介護過程の意義を理解できるようにする。 2. 介護過程の学習では、介護実践課程の全体像を学ぶものであることを理解する。 3. ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し活用、発揮することの意義について、理解する。 4. 自立度や生活の場に応じた介護・医療・保健との連携協働を必要とする介護、終末期における介護の展開などさまざまな利用者の状況に応じた介護過程の実践展開を理解できるようにする。	2前	60	2	○		○									
○		介護総合演習 I ①	1. 実習の事前事後に必要な知識、技術の習得 2. 今回の実習施設の概要等、事前知識の確認 3. 実習記録等の書き方の習得 4. 課題（プロセスレコード・レクリエーション）を達成するための演習を行う。	1前	30	1	○		○									
○		介護総合演習 I ②	1. 実習の事前事後に必要な知識、技術の習得 2. 今回の実習施設の概要等、事前知識の確認 3. 実習記録等の書き方の習得 4. 課題（担当利用者のアセスメントシートの作成・個別援助計画の作成）を達成するための演習を行う。	1後	30	1	○		○									
○		介護総合演習 II	1. 実習の事前事後に必要な知識、技術の習得 2. 今回の実習施設の概要等、事前知識の確認 3. 実習記録等の書き方の習得 4. 介護過程の実践的学習（個別援助計画の作成・実施） 5. 介護技術の再復習	2通	60	2	○		○									
○		介護実習 I ①	1. 実習施設の目的・役割・構造について理解する。 2. 利用者の生活リズムを把握し、介護者としての役割を理解する。 3. 人間的なふれあいのなかで利用者との関わりが持てる。 4. 基本的な日常生活の介護技術を、その根拠と原則をふまえて見学し、実施する。 5. 介護者としての視点で観察し、記録、報告する。 6. 地域社会における施設の役割を学ぶ。	1前	96	3			○		○		○					



○		介護実習Ⅰ②	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設の目的・役割・構造について理解する。</li> <li>2. 利用者の生活リズムを把握し、介護者としての役割を理解する。</li> <li>3. 人間的なふれあいのなかで利用者との関わりが持てる。</li> <li>4. 基本的な日常生活の介護技術を、その根拠と原則をふまえて見学し、実施する。また、場面における援助をその根拠と原則を踏まえて実施できる。</li> <li>5. 介護者としての視点で観察し、記録、報告する。</li> <li>6. 地域社会における施設の役割を学ぶ。</li> <li>7. 対人援助者としての自己を客観視する</li> <li>8. 介護福祉士としての自己の課題を発見する。</li> <li>9. アセスメント表及び個別援助計画書を書く。</li> </ol>	1 後	144	4				○	○	○	○
○		介護実習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設の目的・役割・構造を理解する。</li> <li>2. 利用者の生活リズムを理解し、利用者の個別理解を深める。</li> <li>3. 適切に介護過程が展開できる。</li> <li>4. 他職種の役割を理解し、連携の在り方を学ぶ。</li> <li>5. 地域社会における施設の役割を学ぶ。</li> <li>6. 介護者としての視点で観察し、記録、報告できる。</li> <li>7. 職業人としての介護福祉士である自己を明確にする。</li> <li>8. 介護福祉に関する研究的態度を養う。</li> </ol>	2 通	216	6				○	○	○	○
○		発達と老化の理解A	<p>成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病について学ぶ。</p> <p>老年期の特徴と発達課題について学ぶ。</p> <p>老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と、それらがどのように生活に影響を与えるかについて学ぶ。</p>	1 前	30	2	○			○			○
○		発達と老化の理解B	<p>高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を学習する。</p>	1 後	30	2	○			○			○
○		認知症の理解A	<p>医学的側面から見た認知症の基礎や、認知症に伴う心と体の変化、日常生活など認知症を取り巻く状況を理解する。認知症の人やその家族を支援する為、地域での連携と協働がいかに重要か学び、かつ円滑に支援するにはどうすればよいかを学ぶ。</p>	1 前	30	2	○			○			○
○		認知症の理解B	<p>医学的側面から見た認知症の基礎や、認知症に伴う心と体の変化、日常生活など認知症を取り巻く状況を理解する。認知症の人やその家族を支援する為、地域での連携と協働がいかに重要か学び、かつ円滑に支援するにはどうすればよいかを学ぶ。</p>	1 後	30	2	○			○			○
○		障害の理解A	<p>障害者福祉の基本理念とサービス、関連施設施策を理解する。支援現場の実例から、支援者としての基本的な概念の形成を求める。</p>	1 前	30	2	○			○			○
○		障害の理解B	<p>I C F国際機能分類におけるの基本理念とサービス、関連施設施策を理解する。支援現場の実例から、支援者としての基礎的な概念の形成を求める。過去の問題や追加の資料、教科書での重要なポイントを抽出し、グループやペア学習を含めたスタイルで自らの意見を持ち、協調しながら積極</p>	1 後	30	2	○			○			○
○		こころとからだのしくみA	<p>解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活するうえでこころとからだはどのようなにはたらくのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学ぶ。</p>	1 前	60	4	○			○			○

○		こころとからだのしくみB	移動・身じたく・食事・入浴の生活場面ごとに、こころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントを学ぶ。	1 後	30	2	○		○		○		
○		こころとからだのしくみC	こころのしくみとからだのしくみについての基礎を学ぶ。こころとからだのしくみに基づいた介護の方法を考える。	2 前	30	2	○		○			○	
○		医療的ケア	1. 医療的ケアとはどういうものを理解し、介護福祉士の医行為の一部を業として行う必要性や背景、また安全に行うための基礎知識について学ぶ。 2. 「喀痰吸引」「経管栄養」それぞれに関する基礎知識、実施手順とその留意点について学ぶ 「喀痰吸引」「経管栄養」および「救急蘇生法」の各演習において、シュミレーターを使用し、ケアの流れを準備・実施・報告・記録まで、それぞれ留意点について学ぶ	2 通	120	6	○	△		○		○	
○		国試模擬	模擬試験、国家試験過去問題、定期模擬試験の実施、解説により、必要知識の習得を行う。	2 後	30	2	○			○		○	
	○	インターンシップA・B	介護現場への就職を目指すものとして、介護福祉の学びの最終段階としての職業訓練を、現場の施設にて実施し、より即戦力となる力を身につける。	2 後	320	8			○		○	○	○
	○	ボランティア活動A・B		1	192	6			○		○	○	○
○		就職支援	就職活動に向けての自己理解・対人関係への理解 仕事理解・職業意識への価値観探索 就職活動への具体的方法	2 通	30	2	○			○			○
合計				46 科目		単位時間( 112 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の修業年限以上存学し、学校長が課程を修了したと認めた者には卒業証書を授与する・試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の5分の4に達しない者はその科目について評価を受けることができない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。